

音楽で熊本の光に

ライブ翌日、ブルーエンカウント（ブルエン）の皆さんに音楽を始めたきっかけや熊本での思い出などを聞いた。

ギター（リーダー）

江口 雄也（27）

合志市出身。南ヶ丘小・合志中・旧熊本電波高専卒業。



ヴォーカル・ギター

田邊 駿一（28）

熊本市出身。花園小・井芹中・旧熊本電波高専卒業。



ドラムス

高村 佳秀（28）

合志市出身。西合志第一小・西合志中・旧熊本電波高専卒業。



ベース

辻村 勇太（27）

横浜市出身。東京の音楽専門学校で3人と出会い、メンバーに。（このインタビューでは前日ライブでの負傷で欠席）



音楽の始まりはヴィーブル

（江口）僕は合志中に通っていたんですが、毎日役場の前を通って自転車通っていました。

ヴィーブルができたのは僕が小学生のときだと思うけど、図書館によく通っていました。ポケットビスケッツやGLAY、ヒステリックブルーとかのCDを借りていました。僕にとって、音楽の始まりはまさにヴィーブルだったんですよ。いろんな音楽に触れるきっかけになりました。中学に入っても、部活の後にトレーニングルームを利用したり、当時館内にあったお風呂に入って帰ったり、わりとヘビィユーザーでしたね。いつか自分のCDをヴィーブル図書館に置くのが夢のひとつです。

今日は欠席ですが、辻村もヴィーブルのジムに行ったことがあるんですよ。市民じゃないから手続きがすごく大変だった（笑）

（高村）僕は、両親が音楽をやっていたこともあって、小1のころからドラムや他の楽器に触れる機会がありました。江口は僕と出会ってからギターを始めました。

（江口）高1の冬くらいかな。よっちゃん（高村）と仲良くなるきっかけにもなった「ベック」という音楽の漫画を読んでギターを始めたんです。めっちゃ素人で、完全

独学でした。

（田邊）俺もそうでした。高1のころ親戚から一本のアコースティックギターをもらったのが始まり。

高村と出会ったときはまだギターを弾けなかったんで、歌しか歌っていなかったと思います。それがいつの間にか、半年くらいで一気にギターにのめりこみ、寝る間も惜しんで練習しました。夢と希望に満ち溢れていましたね。寝ながらギター持ってたくらいです。

熊本電波高専での出会い

（田邊）2人はバイク、僕は菊電（熊本電鉄菊池線）で通っていました。電鉄のヘビィユーザーでしたね。

（高村）僕と田邊が軽音楽部に入って、一緒にバンドを組みました。ツインヴォーカルだったこともあり、あるとき田邊が自分のバンドを作りたいと言い始めたんです。僕は田邊の歌が好きだったので、一緒にやることを選びました。

（田邊）最初は僕がヴォーカルとギター、高村がドラム、そして当時はひとつ年下のベースがいて、3人でブルエンをスタートしました。

（高村）新しいバンドのギタリストを探す際、違うバンドで僕と一緒にやっていた江口を薦めました。そのころの江口はまだ初心者だったんですけど、話が合って、ピ

ジョンとか夢を共有できたので。そして、4人のブルエンができたのが2004年でした。

上京・新しい出会い

（高村）辻村とは、上京先の音楽の専門学校で出会いました。最初はあくまでもバンドのサポートメンバーだったんですが、正式なベーシストを必要としていたのと、辻村があまりにもいいベーシストだったので。彼のおかげで自分たちのライブスタイルが変わり「この人と一緒にやりたい」と思うようになって、僕らの方からオリジナルメンバーに入ってもらおうと頼みました。

音楽を届けたい

（田邊）最初はちやほやされたいという気持ちが強かったんですが、高校でブルエンを組んだ最初の冬、老人ホームでのボランティアで2曲ほど演奏したんです。帰ろうとバイク乗り場に行く途中、

一人のおばあちゃんが走って追いかけてきてくれて、「応援してるから。あんたたちをテレビで見るとまでおばあちゃんは死なないから」みたいなことを言ってくれたんです。そのときに、なんとなく僕は「音楽はこうやって届くんだな」と思い始めました。一人のお



通常版

2nd シングル
(2015.5.20 発売)

DAY×DAY

テレビ東京系アニメ『銀魂』主題歌



期間限定生産版



通常版

メジャー1st アルバム
(2015.7.22 発売)

ニ(ニアリーイコール)



初回生産限定盤

4人が一丸となって

（高村）2011年の終わり、辻村が辞めると言い出したことがありました。辻村だけ横浜出身で、気付かないうちに3対1になっていったようです。辻村は「ブルエンが作る曲も俺たちのことも信頼できない、辞めたい」と言いました。でも、僕らの中で辻村はすでになく

てはならない存在になっていたんです。辞めたいと言われたときはすごい衝撃を受けましたが、「辻村以外のベースは本当に考えられない」と全力で引き止めました。このとき、辻村と3人だけ

じゃなく他のメンバー同士も会話が足りていなかったことに気付きました。「4人が一丸となってもう一度ちゃんと音楽をやる」と、音楽への姿勢を整え直すきっかけになったんです。

4人の気持ちが一つになり、今のスタッフが僕らのことを発見してくれてからはいるんな運が向いてきたというか。周りにも僕らの

ことをいいと言ってくれる人がどんどん増えてきて、一步一步こま

で進んできたという感じなんです。辻村が辞めるって言わなかったら解散していたかもしれません。

熊本・合志市の皆さんへ

（田邊）ブルーエンカウントは熊本で生まれた音楽なので、熊本を背負って立てるアーティストになれるよう頑張ります。夢は熊本でフェスをやること。以前に比べてバンド数が減ってきています。僕らがしっかりと力をつけて引っぱって行けるよう、熊本の星に、光になれるよう精進すると誓います。

（江口）熊本でバンドがたくさん出てくればいいなと思うし、熊本でフェスをするという僕ら全員の夢をいつか実現したい。これから出てくる若い人たち、今僕らの音楽を聴いてくれている熊本の人たちの光になれるよう頑張っていきたいなと思います。

（高村）気持ちは2人と一緒なんです。僕らの音楽は若い人だけに限定した音楽じゃなく、小さい子から年配の方にもきくと届くと思っています。もっともっといい音楽をつくって、熊本のありとあらゆる人に僕らの音楽が届くよう頑張りたいと思っています。これからご期待ください。